

運転中のスマホ 周り見えぬ状態

小山市 渡辺 勇聖
(高校3年 18歳)

◇私は最近、「ポケモンGO(ゴー)」をしながら車を運転し、人の命を奪ってしまつた事故をニュースで見た。加害者は大人、被害者は高齢の方であつたり、小学生であつたりした。

◇私もポケモンGOを、一度プレイしたことがある。画面に目を向けるときは、必ず止まつてから操作したが、目から入ってくる情報は画面の情報が9割近くを占めてい

た。こんな危険な状態での運転は考えられない。ましてや車に乗っているのだから、隅々まで気を配っていないといけないと思う。

◇今年18歳になつた私は、もう車を運転できる年齢だ。

免許取りたては誰だつて運転に力を注ぐものだが、だんだんと気を抜いて事故を起こすようなことがあつてはならないと思つた。

私に自信くれた 英語スピーチ

大田原市 伊藤 時乃
(中学3年 15歳)

◇私は10月に行われた那須

地区英語スピーチコンテストに出ました。去年も出ましたが、どちらも入賞はできませんでした。本番は少し止まつてしまいました。でも、練習したことは出すことができました。

◇私は中学校の文化祭でも発表しました。コンテスト本番よりも聴く人数が多く、正直、私はやりたくありませんでした。しかし、やり終つた後、友達が「良かったよ」などと声を掛けてくれました。

多くの人の努力 知つた植樹体験

高根沢町 小川 愛奈
(中学1年 13歳)

◇私は、10月に足尾体験植樹に行きました。私にとつては初めての植樹体験でした。植樹をする斜面に行くために登つた急な山道は、思つていたよりも大変でした。

◇私たちが植えた苗木のそばにも、たくさんの木が植えてありました。また、木を動物の被害から守るための柵などもありました。そのような

た。笑わせてくれる人もいました。私はその瞬間にやつてよかった、と思うことができました。

◇英語スピーチは私に自信をくれました。大勢の前で発表したこと、友達が自分をほめてくれたこと。この二つのことが、私を変えてくれたと思います。しかし、入賞できず悔しく思いました。私は、この自信やうれしかったこと、悔しかったことを忘れず生活したいです。

様子を見て、私は足尾に緑を取り戻すために努力をしている人、またその協力をしている人がたくさんいることを知りました。

◇植樹の後には、松木渓谷を歩いて見学しました。野生の鹿がたくさんいるというその場所からは、足尾の山々を見渡すことができました。その景色を見て、足尾の山の緑が失われた当時の写真よりも、緑が増えていることを実感しました。この体験から、私はたくさんの方の努力を知り、自然の大切さを学びました。



「カラスウリ」

佐野市 山地 美恵子